



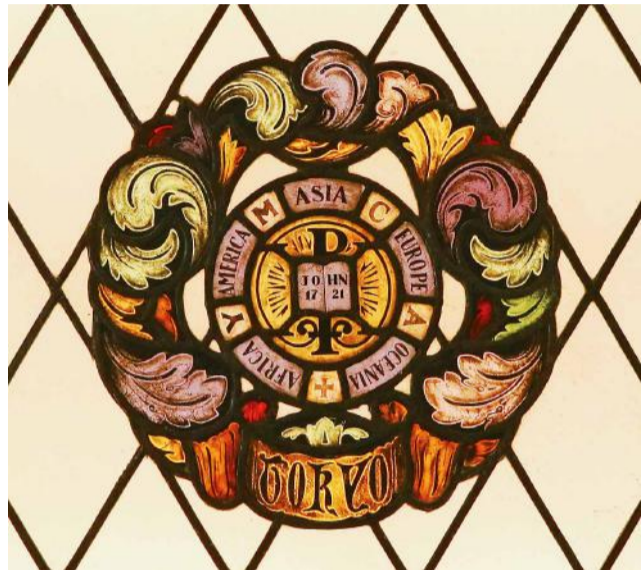
創立1880年
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL http://tokyo.ymca.or.jp/
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 菅谷 淳

東京YMCA 11/12

2020年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。



YMCAの正章をかたどったステンドグラス。第2代会館「江原素六記念礼拝堂」の正面に設置されていた(石川林四郎の寄付による)現在は山手センター1階に設置。

Merry Christmas

もう一つのクリスマス

東京YMCA創立140周年記念特集

<寄稿> きむ しんや 金 迅野 牧師

在日大韓基督教会横須賀教会牧師
マイノリティ宣教センター運営委員
立教大学大学院特任准教授



コロナ禍により例年のクリスマス会も中止となり、静かな年の瀬となりました。今も多くの方が感染症や経済難などで苦しむ中、あらためてクリスマスの意味、そして140周年を迎えたYMCAの使命について、金迅野牧師にメッセージをいただきました。

クリスマスが近づくと、昔にはイルミネーションがとどろき、コロナ禍の中でもクリスマス用のプレゼントのためのさまざまな商品が店頭に並びます。保育園や幼稚園のクリスマス会の劇に必ず登場する人物のひとつに「羊飼」があります。どこかでその風景をご覧になった方も多くあると思います。この場面は聖書の「ルカによる福音書」のクリスマスの記事に載っています。聖書の記事によると羊飼いたちは「野宿をしながら夜通し羊の群れの番をして」いました。そこに天使が現れて「救い主が現れた」という知らせを告げます。そしてその救い主は「布にくるまって(家畜小屋の)飼葉桶の中に寝ている乳飲み子」として現れたと言います。驚くべきことに救い主は、映画に出てくるスーパーマンのような力に満ちた姿ではなく、ひ弱な姿で粗末な場所に生まれたとい

うのです。羊飼いは現代の感覚からすると少しロマンティックな職業のように感じられるかもしれませんが、古代社会における羊飼いは最も貧しい人々で

した。「野宿」していたという表現からも伺い知れるように、彼らは住む家のない野宿者のような存在であったと言います。財産を持つ人たちの羊を預かり野宿しながら生活の糧をなんとか手にしていた羊飼いたち。ところで、なぜ「そのような人々に近い無力な人々に近い無力に『救い』の知らせが来たのだ」と聖書は説いてきたのでしょうか。そのことがクリスマスの意味を考える大きな鍵です。「夜通し羊の番をしてい

た」とあることから、ときに場面は夜であること、所在なげに彼らが空を見上げたであろうことが想像できます。ところで、「上を向いて歩こう」という名曲があります。詩は永六輔さんによるもので、「上を向いて歩こう、涙がこぼれないように、泣きながら歩こう、ひとりぼっちの夜……」というくだりがあります。ひよつとしたら羊飼いたちは、「だれもぼくの気持ちをわかってくれはしない」「なんで人は生きていくのだろう」「わたしが生きている価値はどこにあるのだろう……そんな寂しさ、切なさを感じながら『涙がこぼれないように』空を見上げていたのかもしれない。世間の誰からも見放されている、誰も

わたしのことなんか関心もつてくれない、明日はなにを食べようか、これから先少しでもいいことが待っているんだろうか……。そういう思いで胸がいつぱいになって涙がこぼれそうなたちが、「幸い」にふれることのために、救い主は、そういう人たちに近い無力に現れた。これがキリスト教が伝えてきたクリスマスの一つの意味です。

YMCAのはじまりもこのクリスマスの物語とつながっているように思っています。YMCAはジョージ・ウィリアムズ(1821-1905)によって産業革命真っただ中のイギリスで設立されました。ウィリアムズは少年時代の自分を、不注意で、思慮がなく、神を知らず、人をつかまえては罵るような人間だったと振り返っています。16歳のときに生地屋で職人として働く道が与えられ、良い親方に恵まれ、やがて熱心に教会にも通うようになった彼は、ロンドンの労働者階級の若者の置かれた深刻な状況に出会い、彼らが自暴自棄になつて暴力や酒などにおぼれていく姿に愕然として22

歳の時、そのような若者が犯罪に陥ることなく心と体の貧困から脱出できるように、数人の仲間と一緒にYMCAを設立しました。その目的は、「さまざまなプログラムを通して若者の魂の状態を改善すること」でした。ウィリアムズの脳裏には、疲弊して自暴自棄になっていたロンドンの若者のなかに、かつての自分の姿が重なって映っていたのかもしれないと、ウィリアムズが始めたYMCAのすべての活動には、その根底に、聖書から学ぶことや祈りを通して相互に助け合う社会をつくりだしていくという考えが横たわっていました。このようにYMCAの活動は、社会の最も底辺におかれた存在が孤独に捨て置かれることなく、人生の主人公として自分の足であるいていく「救い」の道が与えられるための活動として開始されました。そのことを考えるとき、現在のYMCAの活動も、救い主の誕生(クリスマス)の知らせが最も貧しい羊飼いたちに最初に訪れたことと深いところで連なっているはずだと、私は思っています。

たことがあります。その活動の一環で、野宿者の仲間たちが炊き出しのためにある公園に集まりました。クリスマスが近づいた頃の話です。その公園は、仕事を求めて仲間たちが集まる公園でもありませんでした。その日の夕方、集まった私たちの眼に飛び込んできた風景が、いまでも脳裏に焼き付いています。それは公園に面して建てられた新しい小綺麗な一軒家でした。ペランタにはサンタクロースの人形やさまざまな装飾とともにクリスマスを祝うためのイルミネーションが光っていました。しかし、クリスマスのために飾られたイルミネーションに輝くその家のペランタの壁には、「浮浪者はこのまちから出ていけ!」と書かれた布地がくくりつけられていたのです。

以下は野宿者の支援をしている知人のクリスマスチヤンの青年から最近聞いた話です。近年、政策によって日本の社会のなかに非正規職が増え、そのうちの少なくない人びとが帰る家を持たずにネットカフェで暮らしていると言われている。しかしコロナ禍によって職を失われた人々も、野宿者と職を迫られた非正規職の人との境界線がどんどん曖昧になってきているといえます。その若い知人は野宿者のために食事を提供する活動を続けているのですが、コロナ禍によ

神学生だった頃、私は、奉仕する教会の牧師先生の勧めで野宿者の健康を守るために夜パトロールに出て毛布やレモネードなどを配るボランティア活動に参加してい

私とYMCAとの関係は1970年代初め、山手センターの小学生プログラムの開始。記憶に残るのは会館近くの鯛焼屋、館内自販機の甘いアイスココア。学生運動隆盛期で中野の家から早稲田までデモ、集会を横目に結構怖い思いをしなが

ら通った▼1990年代に東京YMCA合唱団に入団、その後同じ団員だった職員の松本留美と結婚。育児開始まで資料室の整理をお手伝いさせて頂いたが、私にとっては楽しい仕事、育児、教会学校、幼稚園などの役割で忙しかったが60歳になり少し楽になった今年、運営委員に加えて頂いた▼さて、日本は1995年に生産年齢人口減少開始、教会では私も若者扱い。前の会社では若年層の不足を補うためアジア人材の活用を進めてきたが、我社だけではないと思う。現在日本の社会を支えているのは彼らだ。しかし日本社会では漫然と活用だけ進めて事件、問題だけ取り上げる。申し訳なさもあり、一昨年日本語教師養成講習を終え、この問題を改めて考えた。共に生きる青年たちの歴史ある団体として、外国人青年たちの心をつかんだ活動が何か出来ないかと思う今日この頃である。(会員部運営委員 榊原正人)

赤三角

私とYMCAとの関係は1970年代初め、山手センターの小学生プログラムの開始。記憶に残るのは会館近くの鯛焼屋、館内自販機の甘いアイスココア。学生運動隆盛期で中野の家から早稲田までデモ、集会を横目に結構怖い思いをしなが

(2面に続く)

1面より

て列に並ぶ人の数が明らかに増えていて、用意した食事の数が足りなくなり、並んだ列の最後の人たちに食事がゆき届かないという事態が発生しました。そのとき、すでに食事を手にした人たちが、受け取ることができなかつた人たちに声をかけて、食事をわかちあったのだそうです。

先に記したきれいな家に住んでいる人が「浮浪者はこのまちから出ていけ！」という布地を家に掲げる一方で、帰る家がない人々がそれとはまったく違う風景を生みだす

このコロナ禍のなかで、わたしたちは「ソーシャル・ディスタンシング」を保たざるをえません。人と人の結びつき、ふれあう、交わる、などの基本的な行為の多くが切断されています。そして、気がつくほどだんだんとそのことに慣れてきている自分にはたとえ気づきません。私たちは、毎日発表される

感染患者数や重症患者数に、興味を示すけれども、その裏にどのような生活や希望や苦悩を抱えている個人がいるのかが、なかなか想像できにくくなっているのかもしれない。学校や会社ではリモート会議、テレワークなどが浸透しています。一定程度必要なことではあると思いますが、しかし、その一方で、リモートやテレワークでのしがない仕事に就いていて現場から逃げられないのか、文字通りのちがいで働いている人々がいます。経済を活性化させるために旅行に行くことが奨励される一方で、先に記したように、生活の基

盤を失っている人々もいます。そして、コロナ禍によって物理的な距離をとらざるを得ない状況のなかで、知らず知らずのうちに、人と人の心の距離も大きくなってきているのかもしれない。

神奈川の障害者施設で起きた事件にみられるように、他者の「いのち」をなんとも思わず蹂躪（じゅうりん）してしまう感性を、この社会は生み出してしまっていると思います。自分と違う歴史・社会的・思想的・宗教的背景を持つ者への嫌悪や排他的な考えが、この社会、いえ、世界中にどんどん広がっています。

「わたしが生きている価値はどこにあるのだろう……。弱い立場に追い込まれた人々が「自己責任」や「自助」という冷たい言葉をあびせられて、そんなふうにつぶやいているとしたら、そのつぶやきをいま誰が聴くのでしょうか。そして私たちが、自分にも届かないかもしれない誰かのために祈りつつ、もう一つのプレゼントとしての「良い知らせ」を届けられる活動をもとに編んでいきたいと思っています。

「さすが」「さすが」「さすが」の、頭文字がSの3つです。その時、「よし、私たち夫婦もお互い3sを使う」とうなずき合いました。それからしばらくして3sなんてすっかり忘れ、クイズ番組を見ていたときのこと。たまたま知っていた問題を私がスラッと解くと、妻が「すごい」「さすが」と褒めてくれました。ちよつと気分が良くなったところ、「もう一つ

何だっけ？」その一言で鼻高気分も完全消滅。「『さすが』だよ」と教えると、「そうそう、すばらしい！」とのこと。長年連れ添っている奥方様なので腹も立ちませぬが、その時ふと気づいたことがありました。

私は総主事として日々判断業務を行っています。業務を行っていますが、しっかりと頭を使って考えているかどうか。「マニュアルや規定はどうなっている？」以前はどうだった？」など、自分で考える前から形式的な根拠に頼っていないだろうか、と疑問を持ちました。確かに物事を判断するには根拠となる材料が必要です。マニュアルや規定、前例は重要な判断材料です。しかし様々なケースを想定して自分の頭で考えるべきです。

「人をはめる時に大切なのはなんだっけ？」と今度妻が聞いてきたら、それは「心だよ」と応えたいと思います。たぶん妻いわく、「すごい、さすが、すばらしい！」

ユーチューブでクリスマスライブ

新沢としひこさん等が出演

コロナ禍のクリスマスに少しでも幸せな時間をプレゼントしたいと、東京YMCAは12月5日、4月のイースターライブに続く2回目のユーチューブライブを開催しました。出演は、『世界中の子どもたちが』『にじ』などで知られる新沢としひこさんや『ドラえもん』の山野さと子さん等が所属する「アスク・ミュージック」のみならず、数々のヒット曲やクリスマスメドレーのほか、パントマイムなども披露されました。動画中は、子どもたちが描いた「今一番やっていたこと」の絵も配信しました。

ライブでは、子どもたちの描いた「今いちばんやりたいこと」の絵も配信しました。

当日の録画は左記よりご覧いただけます。ぜひ共有ください。

には、子どもたちが描いた「今一番やっていたこと」の絵も登場。心温まる楽しい90分間となりました。

「おじいちゃんおばあちゃんとおうちで遊ぶ」

↑皆で大縄跳びをとびたい

↑「おじいちゃんおばあちゃんとおうちで遊ぶ」

↑皆で大縄跳びをとびたい

↑皆で大縄跳びをとびたい

↑皆で大縄跳びをとびたい

↑皆で大縄跳びをとびたい



ライブでは、子どもたちの描いた「今いちばんやりたいこと」の絵も配信しました。



↑「おじいちゃんおばあちゃんとおうちで遊ぶ」



↑皆で大縄跳びをとびたい



世界YMCA/YWCA合同祈禱週

2020年度テーマは「希望の光」



毎年11月第2週に、世界中のYMCAとYWCAの仲間たちが一つのテーマについて考え、共に祈る「合同祈禱週」。今年『希望の光～実践的な霊性によってレジリエントのあるコミュニティーを創る』をテーマに開催され、東京YMCAは11月12日、東京YWCA、在日本韓国YMCAとの共催で礼拝を行ないました。コロナ禍のため社会体育・保育専門学校での会場参加だけでなくオンラインでの参加も受け、計68名が出席。日本キリスト教協議会総幹事の金性済（キム・ソンジェ）牧師より、「神の約束、我らの誠実—コロナ禍とノアの箱舟」と題して説教をいただき、社会的に虐げられる人のない、希望あるコミュニティーの必要などについて学びました。（総務部 戸坂昇子）

にほんごサポート「にじいろ」開始

在日外国籍の子どもたち等をサポート

外国にルーツをもつ子どもたちの学習などをサポートする「にじいろ にほんごサポート」が11月から東陽町コミュニティーセンターでスタートしました。

初回の11月7日は、カナダから帰国したばかりの小学生たちが参加。ボランティアの学生と一緒に食べ物カードを使って会話の練習をするなど、歌やゲームを楽しみながら日本語に触れました。今後もオモチャのお金でお買いものごっこをしたり、学校の宿題をお手伝いするなど、個々に合わせたサポートをしていく予定です。

なお「にじいろ」ではただいま「アマゾンみんなで応援プログラム」（下記）を通じて遊び道具を募集しています。ご協力をお願いします。（東陽町コミュニティーセンター木村卓司）

【ご支援お願い】Amazon「みんなで応援」プログラム

Amazonの「ほしいものリスト」を使ってNPO等に物品を寄贈するという、新しい寄付プログラムが始まりました。現在YMCAはじめ国内約150の団体が支援してほしい物品リストを公開しており、Amazonのサイトでご購入いただくと支援先に届けられます。東京YMCAでは上記「にほんごサポート」で使うオモチャ等の寄付をお願いしております。ご協力をお願いします。



⇒詳細はホームページで【問合せ】東京YMCA本部事務局 tel. 03-6302-1960



総主事カフェ

東京YMCA総主事

菅谷 淳

総主事カフェによる。もうすぐクリスマスですね。今年も皆さんが良きクリスマスを迎えられるようにお祈りします。さて、先日夫婦でテレビをみていたら、人をほめる大切言葉として「3s」という話がありました。3sとは、「すごい」「さすが」「さすが」の、頭文字がSの3つです。その時、「よし、私たち夫婦もお互い3sを使う」とうなずき合いました。それからしばらくして3sなんてすっかり忘れ、クイズ番組を見ていたときのこと。たまたま知っていた問題を私がスラッと解くと、妻が「すごい」「さすが」と褒めてくれました。ちよつと気分が良くなったところ、「もう一つ



「東京YMCAオープンスペースliby・高等学院」の皆さん。授業後に新宿の花園神社まで歩きました。

今年は走らず 歩いて参加

1213人で6万2700km 第34回チャリティーラン

障がいのある子どもたちの支援を目的に、30年余にわたって開催している「東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン」は今年、新型コロナウイルスの影響により駅伝大会としての開催がかなわず、替わってウォーキング大会として開催しました。競技ルールは、スマホアプリで歩数をカウントしながらそれぞれの場所まで歩き、チームの平均歩数を競うというもので、10月24日から11月1日まで9日間の本レースのほか、10月10日からの「こどもウォーク」と個人参加の「プレ・イベント」の3本立てで行なわれ、参加総数は1213人。参加者による歩数総計は約9000万歩。距離に換算すると6万2700キロメートル、およそ地球1周半を歩いたこととなりました。

<ごあいさつ>

2020年東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン

実行委員長 上田晶平

コロナ禍で多くのイベントが中止になる中で、多くの協賛企業様や団体様にご協力をいただき、無事開催をすることができました。心より感謝申し上げます。



また例年は、ボランティアとして会場設営や走路確保などを手伝っていただいている多くの方々が、ウォーキングであれば参加できるとして個人参加やグループを作って参加をいただきました。本当にありがとうございました。

今春、第1回の実行委員会が開かれた際には、コロナ禍の中で中止すべきではないかとの声もありました。ただその一方で、障がいのある子どもたちの多くが外に出られなくなってしまっており、こういう時だからこそ東京YMCAとしては、感染対策に万全を期してさまざまな活動に参加をしてもらいたいとの思いもあり、そのための資金集めとして大会を開かなければならないとの結論に至り、このような形で開催をすることといたしました。資金集めだけでなく、今回も障がいのある方々にも多数参加いただき、共に生きる喜びを参加者全員で分かち合うという目的も達成することができたと考えております。

来年の開催方式については改めて検討してまいります。引き続きご協力いただくとともに、1人でも多くの方々に再度ご参加いただけるようお願いを申し上げます。ありがとうございました。

「この企画は場所を問わずに参加でき、また駅伝と違って体力に自信のない方も気軽に参加できたことから、地方や海外の方、子どもや高齢者など、例年よりもさらに幅広い方々にご参加いただきました。」

「毎年参加くださっている企業各社からも「テレワークが続いている中、運動不足解消や社員同士のコミュニケーションの機会として楽しく参加できた」（株式会社カーギルジャパン）、「営業職は一生懸命に外回りの仕事をしながら歩数を増やしました」（トヨタモビリティ株式会社）など、今回の企画について、前向きに受け止めていただけたようでした。」

「今年初めて出場した聖路加国際病院に通院中の子どもたちと医療関係者による「ぐうぐう」チームの皆さんは「夏のキャンプが中止になってしまった代わりに参加した。機会として楽しく参加できた」（株式会社カーギルジャパン）、「営業職は一生懸命に外回りの仕事をしながら歩数を増やしました」（トヨタモビリティ株式会社）など、今回の企画について、前向きに受け止めていただけたようでした。」

「大会後のアンケートには「来年こそは駅伝大会を楽しみたい」という声がある一方で、「駅伝には参加できないけれどもウォーキングならまた参加したい」「駅伝大会とは別にウォーキング大会も開催してほしい」といった回答もみられました。おかげさまで益金は4,389,500円にのぼり、物品のご寄付も多数いただきました。急な企画だったにもかかわらず、障がいのある子どもたちが協力くださったことに、心より感謝いたします。」



特設のSNSでは、ウォーキング中に見つけた花や景色の写真などを投稿いただき、近況をシェアしながら歩きました。



障がいのある方もたくさん参加されました。写真は山手センターに通う中学生。お母様と高尾山に行き2万歩も歩いてくれました。

東京-NY フロストバレー便り

*ニューヨーク州で日系人を対象に活動している駐米スタッフからのお便りです。

新型コロナに加えて大統領選挙。10月から11月にかけてのアメリカは非常に多くの情報が氾濫し、言い表すことのできない不安定感を生んでいます。11月17日現在の感染者数は1,100万人、死者数も24万人を超え、9月には3万人前後まで下がった1日当たりの新規感染者数は15万人に急増しています。このままではここ数か月で死者数は40万人近くまで上ると各種研究機関が警鐘を鳴らしています。

史上稀に見る接戦となった大統領選によりアメリカ全土は未だ混沌の中にあります。11月には大都市を中心としてデモ隊による抗議活動、また支持者同士の衝突により逮捕者や怪我人が出ました。暴動を恐れ、マンハッタンなどではショーウィンドウに厚い板を貼り警戒しています。氾濫する情報は物事の真偽を判断する我々の思考を鈍らせています。私たち一人ひとりの力は微力であり、全てを神様の御手に委ね、一刻も早い平安、一人ひとりの安心と安全を願うばかりです。

フロストバレーYMCAは3月のロックダウンから宿泊を伴うプログラムを全て中止としておりましたが、ガイドラインの一部緩和を受け秋から冬にかけてファミリーキャンプの実施が可能となりました。東京パートナーシップとしても約8か月ぶりにファミリーキャンプを実施でき、このような状況の中で充

分な安全対策のもとプログラムを企画、運営していることに喜びや感謝の言葉を多数いただきました。このパンデミックの中、多くのご家族が自宅あるいは近郊での生活を余儀なくされておりましたので、久しぶりに対面でのプログラムを実施でき、フロストバレーYMCAにお招き出来たことを心より嬉しく思いました。

未だ、入国制限や入州制限、外出制限、ソーシャルディスタンスなどによる他者との直接的な関わり、社会活動の欠如は孤立化や分断といった目に見えない脅威を生んでいます。しかし、子どもたちの人格的な成長において、多くの他者（同年代、異年齢、大人）と出会い、多くの価値観に触れることは非常に大切なことです。人と関わり合う中で私たちは常に影響を与え合い自分を見つめ直し変化し続けており、その変化こそ成長であるからです。サマーキャンプ中止という辛い決断をせざるを得なかった2020年の夏を乗り越え、来夏、子どもたちの限りなき成長を期しサマーキャンプを実施すべく準備を進めています。再び子どもたちの笑い声、歌声がキャンプ場に響き、笑顔がお互いを癒し励まし合う機会を作ればと心から願っています。

(東京-フロストバレーYMCA パートナーシップ 嶋山 徹郎)

【2020年度 参加・協賛企業・団体】

- 全国協賛
 - ・三菱商事株式会社
- 全国賞品協賛
 - ・キャセイパシフィック航空日本支社
 - ・アメアスポーツジャパン株式会社
 - ・マテル・インターナショナル株式会社
- 参加・協賛一覧
 - ・株式会社カーギルジャパン
 - ・富士ゼロックス端数倶楽部
 - ・岡谷エレクトロニクス株式会社
 - ・ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
 - ・上田八木短資株式会社
 - ・トヨタモビリティ東京株式会社
 - ・アヴィバ株式会社
 - ・株式会社トランスアクト
 - ・ライオン株式会社
 - ・株式会社ロータスインターナショナル
 - ・株式会社アクアビルトコーポレーション
 - ・京王電鉄株式会社
 - ・国際青少年センターYMCA東山荘
 - ・株式会社恵愛
 - ・ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 在京ワイズメンズクラブ
 - ・YMサービス株式会社
 - ・しのめYMCAこども園
 - ・東京YMCA江東コミュニティセンター 江東YMCA幼稚園
 - ・東京YMCA東陽町コミュニティセンター
 - ・東京YMCA南コミュニティセンター
 - ・東京YMCA西東京コミュニティセンター
 - ・東京YMCA山手コミュニティセンター
 - ・東京YMCAインターナショナルスクール (TYIS)
 - ・東京YMCA国際ホテル専門学校
 - ・東京YMCA社会体育・保育専門学校
 - ・東京YMCA医療福祉専門学校
 - ・東京YMCAオープンスペースliby・高等学院
 - ・東京YMCAにほんご学院
 - ・東京YMCAウエルネス東陽町
 - ・東京YMCA役員・評議員・本部職員